



平成19年8月6日

各位

会社名 グランディハウス株式会社
代表者名 代表取締役社長 福田 晃
(コード番号: 8999 東証第二部)
問合せ先 常務取締役 齋藤 淳夫
(TEL. 028-650-7777)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成19年5月11日の決算発表時に公表しました平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）中間期及び通期の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	10,000	1,120	1,100	630
今回修正予想 (B)	8,000	260	250	140
増減額 (B-A)	△2,000	△860	△850	△490
増減率 (%)	△20.0	△76.8	△77.3	△77.8
(ご参考)前中間期実績 (平成19年3月期中間)	11,945	1,982	1,921	1,116

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	22,500	3,170	3,100	1,760
今回修正予想 (B)	19,500	1,520	1,500	850
増減額 (B-A)	△3,000	△1,650	△1,600	△910
増減率 (%)	△13.3	△52.1	△51.6	△51.7
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	22,220	3,138	3,023	1,734

2. 平成20年3月期 個別業績予想の修正

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,900	990	980	560
今回修正予想 (B)	7,000	235	230	120
増減額 (B-A)	△1,900	△755	△750	△440
増減率 (%)	△21.3	△76.3	△76.5	△78.6
(ご参考)前中間期実績 (平成19年3月期中間)	11,883	1,949	1,896	1,100

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	20,300	2,800	2,750	1,540
今回修正予想 (B)	17,000	1,250	1,250	700
増減額 (B-A)	△3,300	△1,550	△1,500	△840
増減率 (%)	△16.3	△55.4	△54.5	△54.5
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	21,662	3,055	2,956	1,688

3. 修正の理由

平成20年3月期中間期については、平成19年3月期の下半期（実績）とほぼ同水準の100億円（連結）の売上を予想しておりましたが、同業他社との競合が激化したこと及び新規商品の供給が遅れたことなどによる第1四半期での出遅れに対し、足下の受注は回復傾向にあるとみられるもののこれを挽回する水準には及ばないと判断し、平成20年3月期中間期について前回発表の業績予想（平成19年5月11日）を修正することと致しました。

また、通期の業績予想につきましても、既に新商品及び新規分譲地の投入と営業体制の強化、宣伝及び営業情報収集におけるメディアミックス戦略等々に着手しており、下半期には業績に本格的に寄与してくるものと考えておりますが、前記の中間期の予想値の修正の影響に加え、マンションを含めた住宅全体の需給悪化の影響が当期中は残るものと判断し、前回発表の業績予想（平成19年5月11日）を修正することと致しました。

（注記事項）

当社の主力商品である建売住宅は、販売対象の殆どが新規顧客であり固定客を対象とするものではないこと、また完成物件を中心とした販売となることから成約から引き渡しまでが短期であるという特性を有しております。従って、業績の見通しは、本資料発表日現在において当社が合理的と判断する、広告活動等への反響や見込客獲得の見通し等と経済環境、地域特性等を前提としております。このため、実際の業績は見通しと大きく異なる結果となることがあります。

以 上